芭蕉発句十六篇

全

中村俊定文庫
文庫 18
933

宮内省図書寮

序

和哥ハ人を感ハ人を動かす事なれ
ども世の人ものしるとあらはすに
ものの感とする事なれ共其位のうるさと
なりてハ其人物人ものしるとかを
志賀の神ハ世ハ和歌の基とかゝり
給ひ人ものしるとかを
乃ち和歌ハ人ものしるとかを
集ふらしと世ハ仰ぐ

中村定孝

さて毒の御酒を給中の信なりとのみ
して云も自他とつゝしめ之乃ふさ
ひらく物りはた居おかゝ一念の仏法く
是の四つのよさへわすら夜を法華経南之の
仏像を居おかゝ一念の志とそなへて
之を不おもふ所ゝ一切衆生の心を
誠いふ法華の御やつを杉かし大師の
二つのなり異学沼を平色と目ゆゝ
かゝして宗乃中乃経の縁の深とも武蔵く

かけ給りて千麦乃ふ逆毒とおれ
おとりけりて七特ひい紙乃毒物は
蛇とゝゝて暗と云ゝさ二乃面乃
とすま貝本者のうちの六天沈袋
乃紙とゆゝ紙を通つさふ成ゝとゝ景
山ゝ武ゝ遍なゝ毒ゆゝりさひかしく
銀麦ゝ作ゝの月ふ仏系とゝゝも
御酒乃ゝ掘ゝゝゝ紙の異信ゝさ
ゝゆへゝゝいやしさふ拾ゝ杉ゝ法華

さしも佛法長久のことは一意もあ
ひなと変なし佛法ものこりすくなく流
なかるるこゝろ古八戈ヶ横をへくるなとこひ
巖を洒てはくんもの相ひ沈て神仁の
却と成ると立商ものこりくなくなる八
なりと成かふ法ふり佛法の寄ものとなる
僧うしるしてのこりくく
もとめくりきとりて一動ふ位ス一多
所スありしさうてろろやうく涼しき

答く例らくく古八の碧を小一瞬の
ふくりとはすてくく変幻乃居ミて
おくりかさしかりと今ゆ乃
自中なりとして

靖陽百忠井
自序

目録　芭蕉門発句十六篇

一 不易流行之論
一 俳諧之場
一 筆用合場
一 俳体之体
一 句之姿
一 句之詠
一 常之形
一 唯言発句之場
一 永遠ノ場
一 わく場
一 ぬく場
一 句之苦ミ
一 赤素ノ取場
一 多ク故ノ場
一 氣色一物
一 四之一物

不易流行之論

不易

俳と称もあるいとも忠の言野山
筆や乱れさわぐ時の言
いかつちや雷乃五月雨乃雪
物ノ変の一ツ物之変化之海

流行

菜乃花や月は東に日は西に
さまざまなる行くものの姿小節ニ

いかつまとかるうの形つ様う城
也以易海邪寅之清気を
不易流行の海さ向くきといつもさく
扱きこうく解くの和んの上り落ちさる
角さ変ろこの清し成人の云云書面り
甲乙的し発句無脚の続してかを
もれたふ易流行の形ハ表ハ
その易と妙きつこと也

はるばるくみての日も過り居ること

理斎

為日々病の慰つまり次

屋病もて乃氣やむ間ぶ

井乃水の温もなるとさう

ふりり富士乃氣なさ消ぶ

登り八理乃感なるもの四時の吉原さ

るの一を通て感なる人病の有ハ次と

云病入くハ名の動やむくのうちとき

日月の理命しは維乃人入感なし

理八井思のゆりて出るまあるく者人

まを徒ふ知水りつを流て其ハ

この理り京為乃感情と者ハ次もの

今日乃御温之さとくを月来乃やとと

かりも二百月さ細くまを收を同形と

ちうまいいをさ方理乃理して作者ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 松式体

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むかハ如とかゝの事ハ慶とかゝるとた
式席乃間うく句とも[illegible]ハ一生[illegible]
毎りて砂糖と寒清[illegible]
清とうしもしきハ濁りて[illegible]
之身白ハ体しさとめとしの業ハ恩
迷乃時う為人不の[illegible]社[illegible]
行有ようとて[illegible]
乃様式人句ハ[illegible]

とゝ[illegible]句あり式場ハ[illegible]
[illegible]

養園　会場

弱衰乃不[illegible]
無乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

詩書も空月の沈るかゝれ蓮の後夢
いとりて七日の修りて空印ひせぬ沈
ゆるり沈部の乃如きあり寸天を色しは
白雲もうつりていとゝく　灌佛や七日
ゆれハ空月夜ゝいつ乃れ白雲西へ

白之華

白雲の糸乃ゝかゝる廊下
紫のゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

乃月の砧手の迎の波のくま
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山陽を耳ふ音行くゝ水の味ひゝゝゝを
ゝゝ波をゝゝ月乃ゝゝゝふ空小一島
花も乃く海上ゝ乃ゝつの波なく松柏の
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
俳諧乃和行とくゝ山陽俳諧なゝゝ
ゝゝ俳句ゝゝゝゝゝゝゝゝ

一説に世とのなきは此地あかつきとい
ふなり今年の月ふむふいと在くゆたち
浪ちを洞りて洞の人のわかひとり新
村松のあふきふれて行賀の男ちんの
上り胴作なるもうもう湯の郷湯とえて
四し筆の戸の月ふ酒の暑とれ半
為月の一天ふ疑なを人ふを隠もんちを
古人のらられりすりて又長後の古人の

物ちりをう設之いくつくてとえ日岩
物ら布ようあるを作俗ふ人物ちりを
白之物ちを
玉天も家をひしさまの乳
ちりしかや書書嘗く牛牝
葬をの雄ちるをとうんをちう
凡とりて白ふとをるをふの書
凡志の乳りを人を志しをとふ五を

さりて仏名も我の一さと入きりかへ
高の宮仏名りと貴之業年い句海
乗天も恋といつる句なりは高の宮焼
如の之解とうへしき等松を供維の命
なきとは若も無も場是日の御仏名清
食塩りやりてはいきり御とを如
温り一数々流をかつまくは国家の只
変とそのむしろ如く自他の場なりと

いかくおりひかやとうこれく御とこ仏
思ひかしはあるとうるしの文字
仏名表詠りくを松をはりいるこの
出はものつうる句の之とりて業と
あると之とうをるを仏の仏とる
供維の賢業として道をうるくのを海
さうとも云か供屋を云乃ぶりりて
如はくは為法如行の音よりて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

常之形チ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

常なる物之端ふ偏ありておりて
角を入廿年九ノ陽と貴ともかとも山く
雑にもうつししやさて加たうして恵を
遊ぶもいふも遠く遠あり此志迷ふ人多

唯言発句の端

筆やこりかうらいふも二三年
葬やさらのうらふも二つ三つ
様子やの自慢てうんとうへや

貴家の自慢てかんとうへ行じ
温泉ハ此花の咲しく書し咲ふに花さハ
若之行眺眺る眺声小音も貴蔵しる
何しる新に此句を此に且蔵しうさ候
未実濃蕉の力あるてしあさうほの三つ
三つと見入りハ葬の盛之をさの三つ
二三年といつるも唯云ふく筆の風乱
我し様子など自慢てえとう不言世の

中の帝の御くしげ殿維の文書の
方をこそ感じたまへ

永の字の場

翅板の押出りたる時の句
翅板ふたつきかくしふ夜時の
印の字を娘位とかりの
印の色やしすの眉のくれ
句の動の動を物なの黒量ふりたへ

時の句ハ器ふも詩のうの色ハ和物山器
元合と印情のふりと本なりたる所ゆ
取句の字ハ濃の字の物くしハ黒
一色とふ情の句なりなりふなり来
物の句を五ノ場の部兵なれを仕事
野へ印の義の句を印の色のうの
出ものの物ふりあるふ元合をる句
をとくへ多先ふ合をとも云ふ

少く十二八九寸の間の色も第とうへ
あるれまつへ所とて云たいさ記よさ
こゝあり年

## 紀場

おとゝす年や湖水の間
明後年人の八ゝ
多の時流ひ流てつゝの色
多の時流ひ流しくるの色

文月廿五日すゝ暗所流りて水の色ゝ陽
ゝ湖水の色色年ゝ後ふかゝる時
ゝ水ゝ明つゝ場ゝ色ゝ水ゝ流の色
あ陽ゝ深ゝ所ゝ小ゝ形ゝ色ゝ陽より陽ゝ
ゝ深ゝ色ゝ白ゝ陽ゝ深ゝ紫色の所は
一ゝ色ゝ白ゝ陽ゝ深ゝ紫色の所は
所ゝ所ゝ色ゝ深ゝ陽ゝ小ゝ所ゝ一陽ゝ
ゝゝ所ゝ次の部ゝ色ゝ白ゝ陽ゝ深ゝ

求す心より春ミとらして十な一二分も
なる句の言葉といふべし第乃義ハ
まことにしみり実ハ人しれども十分の趣
場所りつしの表ハ其の格のかんくとさむ
打かへしき花なくとふあれ淋洗流しく
不義乃美のさびしさより至なと人にし
このる席百待して古る事し
ぬく場

鶯を聞むかくなき浪人の里
うぐひすの聞むゆく鳴く浪人の里
長浪や広野ふて出雑子の声
長乃野らをまらし一声やさしの声
浪人かふハ一く為前の立り立てうひとた
浪高の謡ふ立まる場ならぬかく発句は
此の句前ま摘もあるべし三れきな抑の
句を此浪人乃里の豊なりしハ海むかく

なきとは月より下知ふる句見え法の句は
はらかりをめく此里乃くゝはすかるは
海山めく嶋々とか知をもよめ此里なれは
蛍も海辺く嶋々と月なと蔵し須之
むかしことをもたるる是は深くとりて
はめるなる雑なの一部と感じたる法の
句を此らに述さしてとめく源さ乗らは
はかもたして以せる野しやへてる

なわく此頃より折とはいふより重し一春
ふとく一折と押くるしてふ第一句のむつ
めさ句作ると定むし

句乃苦こ

此茶会の君くは御るもの家
雑角に寄して定めかる若きは
其の気より勝揃なんとも遠しく法てく
く条と葉花の取れともふ定まさる

して胡乱より人紛室のかつくゝ
陰かせは相角は入らずに家もしなく
畑く近つきの方に御さハ老らの人
ふも扂をくゑも方をくりみち仕合遠
ぞし茶道具と荷ひかへ子さくさいなん入
まう和ふとくいふへし深との白木とハ
御さハ兄なんとふ并りてくすす津き
勤さる男なりへし今月ハ浦文り

おつみとしす日の深とぬるみ心をまさ
男女手へ移んで計り蚊ふりこ拭て衣をひ
さけ居りり重へり掛りて縫りえつしと
れしんうづくと立みる九の時とらつと
なと一程の昔とといふへし日ハ易涼と
りしるぴ宜風九の命やとるらん

東来作え九句

菜の花清くをや祝さくる

瀧花に篇のいなご也總の段
千草万木枯つくしてまたいはゞ風雅と
すましてはとても悟りの筆を染なし
雅なる道へしるも歳月の細つゝくより
名所の古木舟上しみく見わたし細微の
時かしこき足求としで自然の景
色小進するに句をなすにもしく句は細様を
盡く俗くと相なとさふりて十に八九ハ

句にしたる文なりけり細様ハ未來としてし
自然に移るかりしさいなこの句と
求をして天然祖の流へ飛よけなる
理解ぬるときは俳諧の地なるべし

白雄談也端

松杉ひ発とや限めぐる
花の山ときは離れ流
すゞしさ風なりける面根

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日一句

心弾しふゝとのゝくも霞かな

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心乃句

遠案ずるや伊勢の袖役

立乃春や[illegible]まれて所の[illegible]

[illegible]

[illegible]

日一物

角[illegible]中[illegible]ちへ投[illegible]も[illegible]乃[illegible]
[illegible]中ふ[illegible]ぬ[illegible]
念[illegible]
蘆[illegible]

右十六篇[illegible]の作者[illegible]

[illegible]句[illegible]八[illegible]服一刻の句集[illegible]
[illegible]出さ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

きのふ非ずけふ

樂毎蒲

昆森任

迎慕賜

於